

毎月、勉強会に参加している。コロナ前は、福島国語の会小学校部会と中学校部会、たまに高等学校部会に参加していた。会場は、福島市である。平日の夕方からだった。行かなければならないものではない。自主的な参加である。行けば必ず収穫があった。発表をしたこともあった。

コロナ禍ではあるが、令和3年度からは、「F-Labo」に参加するようになった。F-Laboとは、「rst-labo ふくしま」の通称である。リーディングスキルに関する勉強会である。毎月、第4週の日曜日の午後から、郡山市で行われている。

なぜ、行くようになったのか。勤務する野田中学校が、読解力向上、すなわちリーディングスキルに取り組むことになったからである。また、この勉強会を主宰するM女史が、以前同僚であったこと、会を運営するK先生も同僚であったことも大きい。このような自主的な勉強会に参加するのは、どなたか知り合いがいないと、なかなかハードルが高いものである。

コロナ禍以来、オンラインでの参加もあるが、参加者名簿は、110人を超えている。県外の方もいる。県外の方にとっては、オンラインはいい。私は、可能な限り郡山まで行くようにしている。オンラインは、自宅で気軽に参加できる。非常によい。それでも、片道1時間以上をかけて郡山まで行くのは、人との会話から得られる情報が大きいからだろうか。東京など遠くから来てくださった発表者のときには、ぜひ目の前で直接お話を聞きたいということもある。

福島国語の会もそうだったが、F-Laboの運営をしている方には、頭が下がる。毎月、会場をおさえておき、発表者にお願ひし、開催案内を送り、参加者を集約し、参加者名簿をつくり、当日の会を運営する。かなりのエネルギーである。志のようなものがなければ続けることはむずかしいだろう。

まだ、若かった頃、国語の勉強会がなかったため、自分で会を立ち上げようと考えたことがあった。結局、実現できずに終わった。今振り返ると、それでよかったと思う。福島国語の会小学校部会のS先生、中学校部会のS教授、F-LaboのM女史と、いずれも一流のその道の第一人者である。こういった方がいないと、勉強会を続けるのはむずかしいだろう。

F-Laboの志は、福島県の子どもたちを救うことだろう。汎用的な基礎的読解力が足りないために、教科書を読めない、理解できない子どもたちが、学級に半分もいる。子どもたちを助けるためには、先生方が授業を変えなければならない。F-Laboは、そのための先生方の勉強会である。一人も取り残さないということが、リーディングスキルの根底にある。

F-Laboから学んだこと、いただいた資料などは、取捨選択し、野田中学校の先生方に“翻訳”して伝えている。ホームページにもアップすることがある。すると、アクセス数が跳ね上がる。新井紀子先生やM女史の尽力により、RST（リーディングスキルテスト）とともに、リーディングスキルは、広がりを見せている。先生方の意識が変わり、授業が変わっていくことだろう。これから、どれだけの子どもたちが救われていくだろうか。毎月の勉強会を続けることは、大きな成果を生み出す。F-Laboは、10月29日で第44回を数える。